

現在の産業医制度に対する 産業医の意識に係る調査研究

主任研究者

京都産業保健推進センター所長 森 洋一

共同研究者

京都産業保健推進センター相談員 ○森口 次郎
財団法人京都工場保健会理事 池田 正之
財団法人京都工場保健会医長 櫻木 園子

はじめに

これまでの産業保健推進センターの調査研究では、産業医の活動実態や満足度の調査があるものの、その資格要件や研修制度及び日常業務で不安、要望などについて明らかにしたものは見当たらない。

中小企業の産業医業務は、嘱託産業医が中心として担っているが、メンタルヘルス不全、過重労働による健康障害などへの対応を中心に、産業医の責任や業務が増加している一方で、産業医からは業務に不安を感じるとの声もある。

目的

現在の産業医制度（資格要件、生涯研修制度など）及び日常業務での負担や不安、要望などについてのアンケート調査から産業医の意識を明らかにして、問題への対応を検討し、産業保健推進センターでの研修に役立てるとともに、産業医制度の改善の基礎資料とすること等により、産業医の水準向上と中小企業への産業保健サービス向上を図ることである。

方法

- 対象：当センターに登録された産業医557名
- アンケート調査票「現在の産業医制度に対する産業医の意識に係る調査研究」
 - 質問内容：性別、年齢層、勤務先、産業医経験年数、活動時間、担当事業場数と労働者数、関連資格（医師会認定医など）、認定医研修への意見、業務内容と時間配分（現状と理想）、負担や不安を感じる業務、センター研修への意見など。
- 解析対象：回答があった175名（有効回答率：31%）のうち、現在、産業医活動をしている99名（回答のあった175名に対して57%）。

結果

産業医の特徴

男: 女 (%)	87:13
年齢 (最頻値)	60歳以上 (全体の54%)
産業医経験年数 [最頻値 (算術平均値)]	10 (12.4)年
臨床経験年数 [最頻値 (算術平均値)]	32 (32.3)年
産業医活動時間 (時間/月) [最頻値 (算術平均値)]	3 (6.7)時間/月
担当労働者数 [最頻値 (算術平均値)]	300 (476.8)人
主な勤務先	開業 (63%) 病院 (22%)

n=99

産業医が担当する事業場規模と活動頻度

	数	割合 (%)
労働者数による事業場規模		
50人未満	46	18.8
50から299人	165	67.4
300から999人	28	11.4
1000人以上	6	2.4
合計	245	100.0
活動頻度 (単位/月)		
1未満	168	71.2
1から2	47	19.9
3から4	11	4.7
5から15	8	3.4
16以上	2	0.8
合計	236	100.0

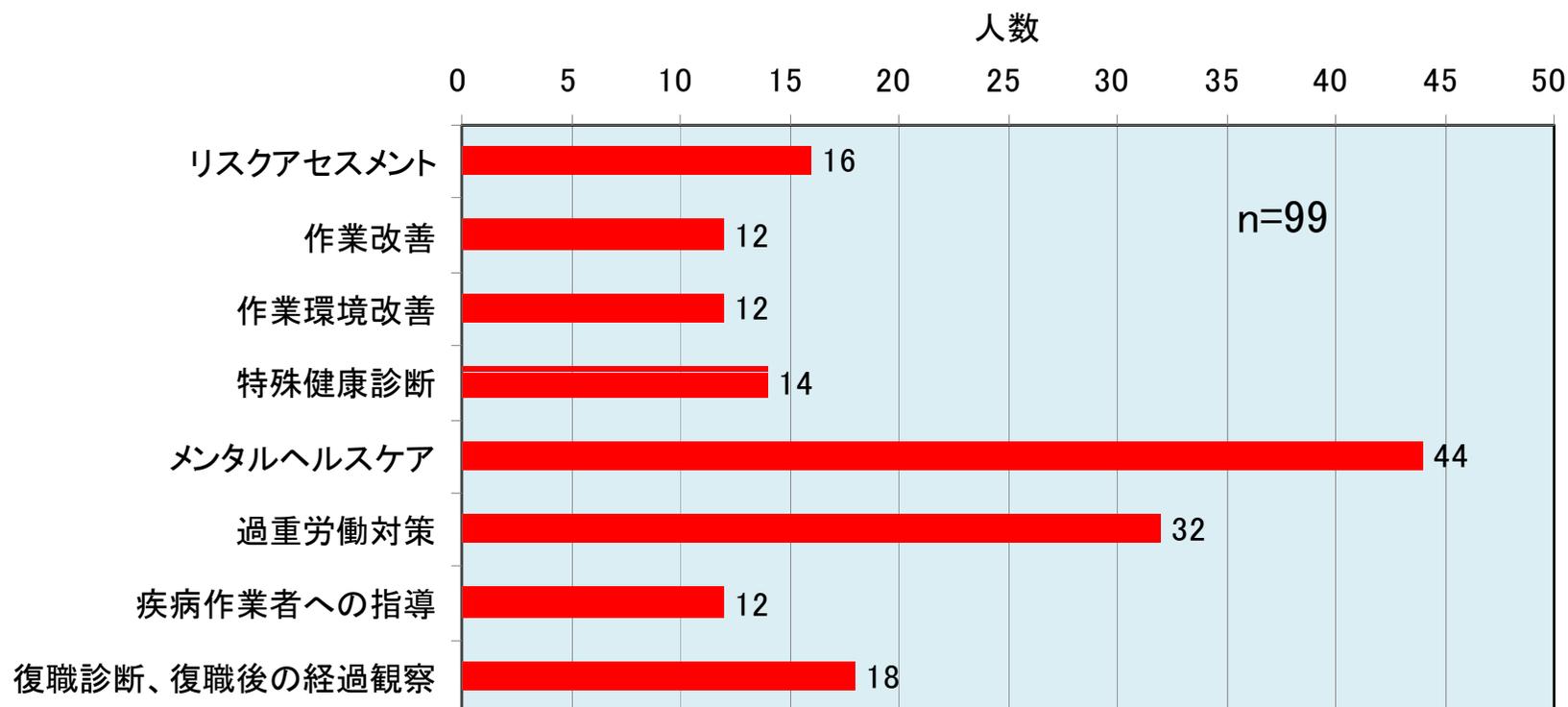
n=99

現状と理想の業務時間について(一部抜粋)

業務	時/月		
	現実	理想	理想/現実(%)
4 リスクアセスメント	0.7	1.1	170
5 作業改善	0.6	0.9	155
6 作業環境改善	0.6	1.0	156
7 一般健康診断	2.1	2.4	116
8 健康診断事後措置	1.9	2.6	138
9 特殊健康診断	1.0	1.6	153
11 健康保持増進活動	1.1	1.7	154
12 メンタルヘルスケア	1.6	2.7	166
13 過重労働対策	1.7	1.9	114
14 快適職場作り	0.8	1.4	168
15 疾病作業者への指導	1.0	1.3	133
16 復職診断、復職後の経過観察	2.3	2.2	97
合計	24.6	33.1	135

n=99

業務の中で負担や不安を感じる業務(一部抜粋)



- 一般健診、事後措置、健康増進などへの回答は5名未満であった。
- 負担や不安を解消するための要望や提案には、メンタルヘルスなど事例の共有(3名)、精神科医とのネットワーク構築(2名)、精神疾患からの職場復帰支援方法への助言、雇い入れ時健康診断の企業毎の偏りや費用負担についての是正、法の明確化、管理職の産業保健研修の義務化などがあがった。

産業保健推進センターが提供する 研修の必要性や重要性

	大変重要	やや重要	どちらとも いけない	あまり重要 でない	全く重要 でない
健康管理	43%	48%	6%	2%	1%
作業管理	31%	50%	16%	2%	1%
作業環境管理	38%	48%	11%	2%	1%
メンタル ヘルス	63%	33%	3%	0%	1%
過重労働対策	44%	48%	7%	0%	1%
労働安全衛生 関連法令	24%	55%	18%	2%	1%

具体的な要望や意見では、実地研修や事例検討を求める声(5名)、曜日や回数についての意見(木曜以外の夜や土日、回数増加 4名)、開催場所(京都市以外など 3名)が多数であった。その他、激励や感謝(2名)、地域での産業の集いによる情報交換の要望、機器貸与窓口の分散増設の要望などがあつた。

まとめ

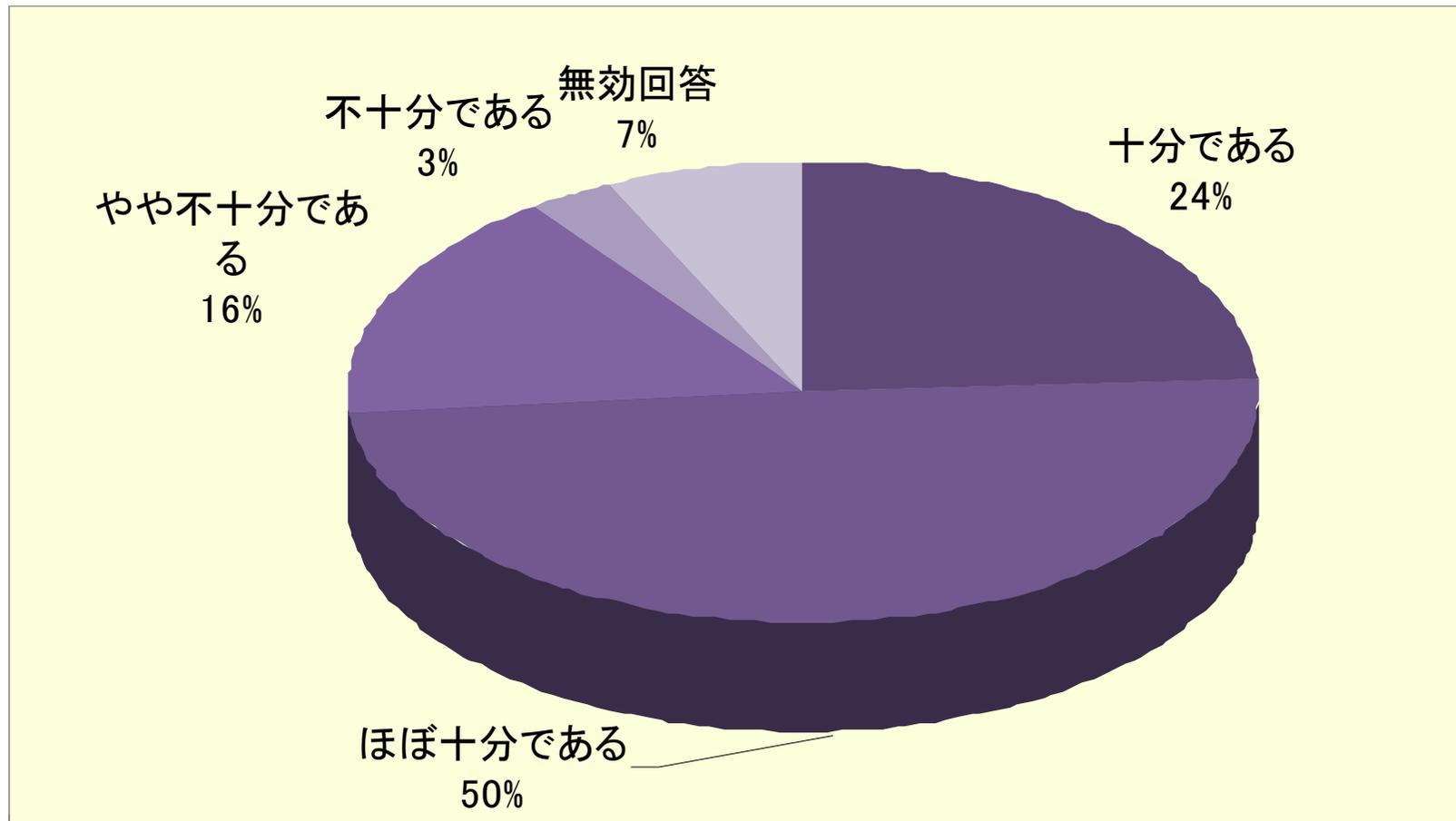
- 産業医がよりよい業務を提供するために活動時間増加など改善の余地があることが確認された。また業務に時間を割き、かつ負担を感じている過重労働対策、メンタルヘルスケアなどへの研修の充実とともに、現在の活動は不十分と考えていながら負担を感じている業務への研修のさらなる充実が必要と考えられた。
- 産業保健推進センターの研修提供方法として、実地研修や事例検討の増設、時間や曜日の見直しなどの検討が必要と考えられた。

産業医関連の資格

	人数	%
1.医師会認定医	94	94.9%
2.産業衛生学会専門医	0	0.0%
3.産業衛生学会指導医	1	1.0%
4.労働衛生コンサルタント	7	7.1%
5.その他	4	4.0%

n=99

医師会認定医取得のための研修への意見



具体的提案や要望として、実地研修、事例検討などを求める意見が8名含まれ、その他、木曜以外の開催、研修医制度のような制度の提案、試験導入の提案、などの記載あり。